

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

宮崎県、串間市、西都市、えびの市、宮崎県東臼杵郡美郷町

2 構造改革特別区域の名称

地域の特性を生かした多様な一貫教育特区

3 構造改革特別区域の範囲

串間市、西都市及びえびの市並びに宮崎県東臼杵郡美郷町の全域

4 構造改革特別区域の特性

(1) 背景と経緯

少子・人口減による高齢社会の到来、産業構造の変化、情報化・国際化の進展、価値観の多様化、環境問題等の様々な課題に加え、三位一体の改革等の国と地方の関係の変化や市町村合併に伴う地方分権の加速等、社会経済情勢の著しい変化は、本県にとっても厳しいものがある。

このような時代や社会の変化を踏まえ、本県が存在感のある地域として輝き続けるためには、本県の有する最大の資源・特性である豊かな「自然」と、思いやりや人情味あふれる「人」の持てる力が十分に発揮される活力ある社会の形成が、これまで以上に求められている。

活力ある社会形成の主体者となる「人づくり」は、教育に課せられた重要な役割であり、本県においては、地域に自信と誇りを持ち地域に貢献できる人材の育成を目指して、志を持って未来を拓く子どもの育成に取り組んでいるところである。

しかしながら、少子・高齢化や国際化、情報化、科学技術の発展等、子どもたちを取り巻く状況が急激に変化する中であって、学力低下への懸念、規範意識の低下や人間関係の希薄化、いじめ・不登校の問題、自然体験・社会体験の不足、さらには家庭や地域の教育力の低下等、豊かな人間性を育むべき時期の教育に様々な課題が見られる。

とりわけ、少子化に伴う学校の小規模化は、集団活動を通して養われる社会性を育む上で教育力の低下が懸念されており、子どもにとっての望ましい集団規模の確保が課題となっている。

こうした本県教育の現状と課題を踏まえ、県教育委員会では、平成15年3月、学校教育を中心に今後10年間に取り組むべき施策の方向と展開を示す「宮崎の教育創造プラン」を策定した。

本プランでは、施策推進の基盤として次の三つの重点課題を設定し、平成15年度から、その取組を始めた。

基礎的・基本的な力や態度の育成の徹底
望ましい自信や将来に対する夢や希望の育成
一貫と連携・融合の教育推進

重点課題に対する取組の成否については、各学校における指導の充実に加えて、学校種間の連携・接続を考慮した系統性・一貫性のある指導をいかに機能させていくかが重要であると考えられる。

さらに、平成16年度、プランの具現化を図る取組を一層推進加速するために、徹底した現状分析を行い、選択と集中による効果的な施策・事業の構築を検討した。

その結果、中・長期的な展望に立ち、向こう3か年に集中的に取り組む施策として、『はばたけ！宮崎の子どもたち』（～教育県「みやざき」の創造～）をスローガンに掲げ、『明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト』（H17～19年度）を策定し、平成17年度から重点施策として取り組んでいる。

戦略プロジェクトでは、「知」・「徳」・「体」の調和のとれた健やかな人間の育成を目指して、4つの柱を重点事項として設定している。

そのうち、特に、「幼保小中高の連携による『知』・『徳』・『体』の一貫教育の推進」については、教育という営みが長期的・継続的スパンの中で、学校種間の円滑な連携・接続による一貫した指導により、その成果を確実にあげていくことから、取組の全体を貫く重要な手法として位置付けている。

一貫教育については、本県は、平成6年度に全国に先駆けて、五ヶ瀬中等教育学校を開校し、開校後12年間の取組を通して大きな成果をあげている。平成19年度には、新たに併設型の中高一貫教育校として、宮崎西高等学校に県立の附属中学校を設置することとしている。

また、現在、小学校と中学校及び中学校と高等学校の連携推進のためのモデル事業として、次のような取組を行っている。

<小中連携推進事業（H17～19年度）>

県内の小・中学校149校の推進拠点校（小学校105校、中学校44校）において、小・中学校の9年間を一括りとし、「知」・「徳」・「体」に関する到達目標を設定するとともに、小中連携による系統性・一貫性のある指導を通して、基礎学力、基本的な生活習慣や社会的マナー・エチケット、基礎体力の育成に取り組んでいる。

推進拠点校においては、小・中学校間の目標の共有化とその実現に向けての共同実践ができるようになってきたが、小学校高学年から中学校への接続の段階で、教育課程上の連携・接続の工夫が課題となっている。

<中・高連携推進モデル事業（H18～20年度）>

県内3地域で中・高等学校10校の推進モデル校（中学校7校、高等学校3校）において、中学校と高等学校が、教員交流研修や合同授業研究会等の取組により相互の連携を強化し、系統性・一貫性のある指導を通して、中等教育の一層の充実を図ることをねらいとして取り組んでいる。また、中・高連携プロジェクト会議を設置し、連携・一貫のための推進体制の確立を図りながら、取組を進めているところであるが、中・高の教育課程についての相互理解と、円滑な接続や一貫した取組の内容・方法を明確にしていくことが課題となっている。

(2) 構造改革特別区域による一貫教育推進の必要性

平成18年12月、本県の今後の学校教育の在り方について、各界の有識者等で構成し協議する「宮崎県学校教育改革推進協議会」において、「学校種間の円滑な連携・接続を図ることにより、子どもたちによりよい教育環境と、より質の高い教育を提供するために、小中一貫や中高一貫、さらには小中高一貫など、各地域のニーズや実態を踏まえた多様な一貫教育の推進」への期待が、まとめとして報告された。

こうした期待の背景・理由としては、次のような喫緊の課題が指摘されている。

<一貫教育推進の背景・理由>

学力向上対策と学校種間の連携・接続の改善

高等学校入学時における生徒の学力については、その個人差にかなりの開きが見られる。そのため、高等学校においては、中・高等学校間のブリッジ教材（つ

なぎ教材)の開発や、1年生に対する「学び直し」の補充学習を行うなど、高等学校での学習に対するレディネスの調整を工夫している状況が見られる。

また、小学校から中学校への入学時においても、同様の傾向が見られる。

そこで、児童生徒の発達や学びの特性等を見直すとともに、小・中・高等学校の学校種間の連携・接続の改善を通して、児童生徒に身に付けさせるべき学力について、定着の徹底を図る必要がある。

県立高等学校通学区域の弾力化への対応と学校の活性化

本県では、平成20年度入学者選抜より県立高等学校普通科の通学区域が撤廃されることになっている。このことにより、入学志願者の偏りや学校間格差が生じないようにすることが重要であり、通学区域の弾力化に向けて、これまで以上に、普通科高校の特色ある教育課程の編成と魅力ある学校づくりが求められている。

特色ある学校づくりの手法として、小中高一貫教育の推進が考えられる。つまり、隣接あるいは近隣の小学校・中学校・高等学校が一体となって、学校種間の円滑な連携・接続を図り、長いスパンで児童生徒の発達段階に即して系統性・一貫性のある継続的な指導を行うことにより、地域に自信と誇りを持ち地域に貢献する人材の育成が期待される。このことにより、地域に根ざした学校づくりと地域の活性化を図るものである。

少子化対策と望ましい集団規模の維持・確保

少子化に伴う児童生徒数の著しい減少や学校の小規模化により、教育効果の減少が懸念されている。例えば、児童生徒間の人間関係が固定化され社会性が育ちにくかったり、一定規模の集団が必要な学校行事や部活動において不活発になりがちであったり、あるいは、授業の幅や厚みがなくなったりするなど、小規模であるがゆえに様々な教育上の支障が生じている。

そこで、豊かな社会性を育むために必要な集団活動のできる、学校としての一定規模の集団を維持・確保するために、小・中・高等学校間において児童生徒の交流活動等を行うことにより、教育活動の活性化を図る必要がある。

また、地域コミュニティにおける教育・文化の拠点としての役割を有する学校の活性化が図られることにより、地域の活力の高揚・活性化が期待される。

以上の現状や背景を踏まえ、今後の本県の教育改革として、一貫教育をこれまで以上に、より骨太のものとして推進していく必要がある。

連携による一貫教育をより一層推進・充実するためには、学校種間の円滑な連携・接続を図り、教育内容及び指導方法の系統性・一貫性を適切にすることが何よりも重要である。そのためには、学校種間のカリキュラムの連携・接続の在り方等を見直し、これまでの区分にとらわれない教育課程の編成や教科等の弾力的な運用等が必要と考える。

そこで、教育課程の基準である学習指導要領によらない教育課程の編成やその弾力的運用が可能となる構造改革特別区域の制度を活用し、『地域の特性を生かした多様な一貫教育の創造』を、「みやざき発『連携型・一貫教育』」として全国に発信しようとするものである。

なお、本計画において、連携型・一貫教育とは、「地域に自信と誇りを持ち地域に貢献する人材の育成を目指して、隣接あるいは近隣の小学校・中学校・高等学校が一体となって、学校種間の円滑な連携・接続を図り、発達段階に即して系統性・一貫性のある継続的な指導を行うことにより、子どもたちによりよい教育環境とより質の高い教育を提供する」取組とする。

(3) 構造改革特別区域による一貫教育を実施する市・町の特性

串間市、西都市、えびの市については、小中一貫教育及び小中高一貫教育として、美郷町については、小中一貫教育として取り組むものであり、県との連携による構造改革特別区域とすることとしている。

ア 串間市の特性

市の概要について

串間市は、人口約2万2千人、宮崎県の最南端に位置し、東部は日向灘、南部は志布志湾に臨み、延長77Kmに及ぶ海岸線は風光明媚で日南海岸国定公園に属している。

北部は都城市及び日南市、東北部は南郷町と山で境を接し、西部は鹿児島県志布志町と隣接している。市内には、二つの山脈が走り、龍口山、笠祇山等を主峰とするその北部一帯は、うっそうとした山林に包まれ、森林資源の宝庫となっている。

これらの連山に源を發する河川は、市内の中央を貫流する福島川をはじめ、善田川、本城川、市木川などの河川に分かれ、その流域は肥沃で豊富な農産物を産出している。

また、都井岬ソテツ自生地、岬馬及びその繁殖地、幸島猿生息地、石波の海岸樹林等の自然遺産にも恵まれている。基幹産業としては、豊かな自然を生かした農業、水産業が盛んで、特に大東地区の甘藷栽培、笠祇地区の畜産等は、全国的に高い評価を受けている。

小・中学校の状況について

現在の学校数は、小学校12校(分校1校を含む)、中学校6校の計18校である。

児童生徒数は人口の減少に伴って減少傾向にあり、10年前と比較すると38%減となっている。児童数減の影響から、複式学級となる小学校も増加し12校中7校が複式学級を有するという状況になってきている。また、中学校においては、生徒数減のため、部活動数の減少のみならず、部活動の存続が危ぶまれる事態も見られ、好きな部活動を選択できない状況を招いている。

以上のような実態を受けて、学校再編の必要性が論議されるようになってきており、地域の実態に合わせて、小中連携校、小中一貫校等の方向性が模索されている。

地域住民の学校教育に対する考え方について

小・中学校の状況を受け、定例教育委員会において、学校再編について検討していく必要性が提案され、学識経験者をはじめ、各学校代表、保育所・幼稚園代表、保護者等、地域の各階層の委員で構成した教育振興懇話会を設置した。

この懇話会においては、高等学校も視野に入れた一貫教育の必要性や構造改革特別区域への要望等が出された。

また、地域住民の生の声に耳を傾けるための「教育長と語る会」においては、小・中学校の存続や教育の質を保障するための学校再編等、さまざまな意見が出されている。また、福島高等学校については、市内唯一の高等学校として、さらなる充実・発展を願う声が多い。

このように、一貫教育や学校再編に対する期待は高まってきている。

イ 西都市の特性

市の概要について

西都市は、宮崎県の中央部に位置し、昭和33年11月1日に市政を發足した人口約33,860名の市である。面積が約440平方キロメートルで、その4分の3が森林という自然環境に恵まれているところである。その緑豊かな森林の中で、多数の野生生物やヤマメ、ホタルなどが生息している。

西都市は、かつて日向の中心地として栄え、古事記や日本書紀にも記された神話伝

承のまちでもある。市の中心のやや西に位置する西都原の台地を中心に311基の古墳が点在し、この中にニギノミコトの墓だと伝えられている男狭穂塚、コノハナサクヤヒメの墓だと伝えられる女狭穂塚がある。このような300基以上もの古墳が同じ場所に点在している地域は、全国でも稀であり、規模は最大級といわれている。

また、神楽や臼太鼓踊りなどの伝統芸能なども豊富にあり、伝統を守り伝えている。その他、日向国分寺跡、都於郡城址などの由緒ある文化財等も数多くある。

市の基幹産業は、農業である。特に、ピーマンの出荷量は日本一である。その他に完熟マンゴーや完熟キンカンなどが全国的に有名である。

現在、「元気な日本のふるさと西都」を目標像に定め、重要実施政策については基本構想の推進戦略に位置づけ、その実現に向けて取り組んでいる。

小・中学校の状況について

20年前の児童生徒数は合計で約5,000名であったが、本年度は約3,000名であり、2,000名強の減少になっている。市内の学校数は、小学校9校（分校1校含む）、中学校6校の計15校である。妻地区に人口が集中しており、市内中心部の3学校（妻北小学校、妻南小学校、妻中学校）を除く12校は、児童生徒数が急激に減少している。

そのほとんどの学校が1学年1学級である。市教育委員会として、各地区とも1小学校・1中学校となっていることや校舎が隣接または近いことを利用して、小中学校連携しての学力向上事業「レベルアップ西都」を展開している。その中で、相互授業参観や授業交流、合同研修会などを実施している。さらに、全学校がふるさと学習に取り組んでおり、かなりの共通点を有している。

市教育委員会では、全学校の教育活動をさらに活性化するために、教育委員会で「学校再編成の方向性も踏まえながらの西都市の学校活性化のための研究」を始めている。

その中で、活性化の大きな手立てとして、一貫教育も検討事項になり、成果があるところと見え、さらに地域の特性を生かした一貫教育の在り方について研究を深めていくことにしている。

地域住民の学校教育に対する考え方について

市民は、子どもを地域の宝であると考え、西都市に誇りを持つ子ども、郷土をよく知り郷土愛に満ちた子ども、学力のある子ども、心優しい子どもの育成を心から望んでいる。また、地域住民は、昔から学校を地域の中心であると考えている。だからこそ学校への存続への思いや学校への期待は深いものがあり、学校に献身的に協力している。議会においても最近の児童生徒の減少による学校の活力への影響についての質問や学校統廃合についての質問、中高一貫教育に関する質問も出ている。

このように、今後の学校の在り方について、西都市民の課題意識は高い。なお、西都の子どもたちができるだけ同じ条件や同じ内容のもと、公平な公教育を進めて欲しいとの意見もある。

ウ えびの市の特性

えびの市は、宮崎・鹿児島・熊本3県の県境、南九州のほぼ中心地に位置し、南側は霧島屋久国立公園、北側は九州山地に接し、市内中央部を川内川が西へと流れ、気候は盆地特有の寒暖明白な内陸性気候にあり、自然豊かな田園都市である。旧藩時代は薩摩藩に属し、明治22年の町村制施行により飯野村、加久藤村、真幸村が置かれたが、昭和41年11月に3町が合併して「えびの町」となり、さらに昭和45年12月1日に市制を施行して「えびの市」となった。

昭和25年には41,000人あった人口も、過疎化に歯止めがかからず、平成17年の国勢調査結果では、23,079人まで減少、また、本市の基幹産業である農業も、従事者

の高齢化、担い手不足による放棄耕作地の増加など厳しい状況下にある。

このような状況下ではあるが、南九州の中心部に位置するという立地条件と九州縦貫自動車道による交通結節機能は、本市に人的・物的な交流拠点としての優位性をもたらしており、この特性を活かしたまちづくりをめざしている。

現在、本市は第4次総合長期計画を策定し、基本目標の一つに「新時代を担うほっとな人づくり」を掲げ、21世紀の社会を支える人材の育成のために様々な施策を行っており、学校教育においては、平成17年度より学校二学期制を導入。「より質の高い教育を、より創造的な教育活動で」を合言葉に、さらに、えびの市学校教育「五つの挑戦」として次のような目標を立て、活力ある学校教育の実現に積極的な取り組みを行っている。

【ふるさと教育への挑戦】

(ア)川内川学習の推進 (イ)伝統芸能・伝統行事の継承活動の推進 (ウ)国際理解教育の推進

【学力向上への挑戦】

(ア)基礎学力としての「読み」「書き」「計算」について確実に習得できる指導の充実

(イ)体験的・問題解決的な学習の推進 (ウ)個に応じた指導の充実 (エ)各学校での学力向上の成果の集約及び波及 (オ)特別支援教育の充実 (カ)へき地教育事業の充実

【心の教育への挑戦】

(ア)読書教育の推進 (イ)体験学習・社会奉仕活動の推進 (ウ)人権同和教育の充実

(エ)道徳教育の充実 (オ)生徒指導の充実

【たくましさへの挑戦】

(ア)体育・健康教育の推進 (イ)エイズ(性)教育の推進 (ウ)薬物乱用防止の教育の推進

(エ)食育教育の推進 (オ)部活動の活性化 (カ)安全教育の充実 (キ)学校給食の充実

(ク)規範意識(基本的な生活習慣)の醸成 (ケ)実践力(実行力)の育成

【連携・融合への挑戦】

(ア)地域人材の活用 (イ)地域活動への支援 (ウ)家庭教育への支援と連携した活動

(エ)幼小・小中・中高連携の推進 (オ)学校評議員の活用

一貫教育の必要性について

本市における児童生徒数の推移を平成25年度までの試算を行った結果、緩やかではあるが確実に減少傾向にある。そのような中、平成20年度入学者選抜より県立高等学校普通科の通学区域が撤廃されると、地元の飯野高等学校への進学率の低下や優秀な人材の市外への流出に拍車がかかる可能性が極めて高いと考えられる。

そこで、これらの予想される問題を解決していくために、構造改革特別区域による一貫教育を活用し、一層の学力向上を図るとともに、地域に貢献する人材の育成を推進することによって、本市の活性化を継続的に行っていきたいと考える。

これまでに飯野小学校が平成15年度から2年間、飯野中学校が平成14年度から3年間、文部科学省の「学力向上フロンティアスクール」として指定を受け、実践的研究に取り組んできた。また、県の小中連携推進事業の拠点校として、飯野小・中学校は平成17年度から平成19年度まで指定を受け、飯野高等学校との連携も図り取り組んでいる。これらの成果を生かし、更なる学力向上を図る方策として小中高一貫教育の導入を強く望んでいる。

このことにより、学校種間の連携・接続を考慮したカリキュラムや相互乗り入れによる習熟度別指導のスムーズな計画と運営、地域学習等、12年間を通じた取組によって、確かな学力を身につけ、郷土に対する愛情を育み、将来地域に貢献しようとする人材の育成ができると考える。

エ 美郷町の特性

町の概要について

美郷町は、宮崎県の北部、東臼杵郡のほぼ中央に位置しており、旧南郷村、旧西郷村、旧北郷村が平成18年1月1日に合併して誕生した新しい町である。総面積は約449平方キロメートルと広大であり、周囲を取り囲む山々や清流などの豊かな自然

に恵まれた風光明媚な町である。本町の人口は、平成18年10月現在約7,200人であり減少傾向にある。町内すべての地域で過疎化高齢化が進行しており、町の基幹産業である農林業の振興に大きな障害となっている。

本町は、数々の歴史的伝説の残る町でもある。朝鮮半島の古代国家「百濟」の王族一行が日本に亡命した後、南郷区（旧南郷村）に移り住んだと伝えられており、王族を奉った百濟神社には、正倉院の御物と同一品といわれる銅鏡が残されている。また、西郷区（旧西郷村）には約970年の歴史がある田代神社の大祭「御田祭」が、北郷区（旧北郷村）には平安期末期からの歴史がある宇納間地蔵尊があり、町民に親しまれている。

町内の各地区には、臼太鼓踊りや神楽などの郷土芸能が伝承されており、子どもたちも幼いころからこのような芸能活動に親しんでいる。

小・中学校の状況について

本町には、休校を除いて小学校が8校、中学校が3校ある。平成18年度の児童生徒数は512名であり、平成24年度には約20%減の407名まで減少することが予想されている。小学校8校のうち複式学級を有している学校が7校あるなど、すべての学校が小規模校であり、今後入学者がない年度が出てくると予想される学校も複数ある。中学校3校は、1学年1学級の小規模校であり、教科によっては教員が免許外の教科を担当したり非常勤講師が担当したりするなどの実態がある。このことは、学級集団を単位とした教育活動に支障があると同時に、教職員の適切な配置ができず学校経営上、大きな課題となっており、今後、小中一貫校の設置などにより、学校規模の適正化並びに教職員の適正配置などの諸課題の解決が可能となると考えられる。

宮崎県が平成17年度より実施している小中連携推進事業では、本町のすべての小・中学校が、推進拠点校の指定を受けている。本事業では、小・中学校9か年を見通した「知」・「徳」・「体」の到達目標を設定し小・中学校が連携して教育実践を行うとともに、小学校兼務の中学校教諭が小学校で授業を行うなどの実践を重ねており、その成果がみられている。これらの取組を通して、教職員も小学校と中学校の連携が不可欠であるという認識をもっており、よりよい連携の在り方を研究している。

町教育委員会では、外国語指導助手を全小・中学校に派遣し、小学校での英語活動と中学校での英語科の学習支援を行っている。しかし、小学校の英語活動における系統的な指導や教材の工夫改善などの課題が残されている。

地域住民の学校教育に対する考え方について

各学校の児童生徒数の減少に伴い、保護者・地域住民は、各学校の現状に不安を抱いている。本年度初めて複式学級ができた学校の保護者からは、学校再編により複式学級を解消してほしいなどの意見が出されている。また、南郷区においては、PTA役員で組織する「南郷の教育を考える会」の中で小中一貫教育についての学習会を定期的に行うなど、小中一貫教育への期待は大きいものがある。町教育委員会定例会においても、小中一貫教育への期待の声が大きく、調査・研究の推進を全会一致で可決した。そこで、平成18年12月に区長・公民館長・PTA・学校長代表や学識経験者からなる「美郷町小中一貫教育懇話会」を組織した。今後、小中一貫教育の実施についての協議を行っていく計画である。

5 構造改革特別区域計画の意義

小中連携、中高連携による一貫教育の意義を認める教職員は多いが、学校種間のいわゆる「学校文化」の違いから、連携が必ずしも十分に機能しているとは言えない。一貫教育の正否は、教職員の意識改革と指導方法の改善にかかっている。

そこで、学校種間のカリキュラムの円滑な連携や教育課程の編成に関わる教科の自由な

設定等が可能となる構造改革特別区域の制度を活用し、児童生徒にとってよりよい教育環境とより質の高い教育を提供するとともに、教職員の指導力向上を図るものである。

(1) 教職員の意識改革と指導力の向上

意識改革と指導方法の改善

小・中・高等学校間の連携・接続を円滑にすることにより、児童生徒の成長・発達をそれぞれの学校種のみでなく、より長いスパンでとらえることが可能になり、発達段階に即した適切な指導の必要性や意義についての認識の深まりと意識改革が期待できる。

例えば、中学校の教職員であれば、小学校6年間で積み上げられてきた生徒一人一人の特性を把握するとともに、高等学校での教育も念頭に置きながら、中学校での学習指導や生徒指導に生かすことが重要であるという認識が深まり、自己の指導の在り方を見直すことにより、指導方法の改善が期待される。

(2) 児童生徒の変容

系統性・一貫性のある継続的な指導の徹底による学力向上

小・中・高等学校間における相互乗り入れの交流授業や合同研修会を通して、共通の課題とその解決の手だて等を明らかにすることにより、教育内容の系統性や指導方法の一貫性が図られる。また、小学校教諭のきめ細かな指導方法と中・高等学校のより専門性の高い指導方法の交流・融合を図ることにより、質の高い教育指導が期待できる。

その結果、児童生徒の一層の学力の定着が期待される。

中・高等学校生活への円滑な移行

小・中学校間及び中・高等学校間の段差（ギャップ）は、児童生徒の中には心理的に高いハードルと意識する者もいる。学習・生活の両面だけでなく、部活動や人間関係等を含め、その内容は多様である。学級担任制から教科担任制に変わるだけで、心理的不安やストレスを感じる生徒も少なくない。

学校種間の円滑な連携・接続を図る一貫教育により、児童生徒は、中学校や高等学校の生活にスムーズに入っていくことができ、精神的な負担の軽減と安定した学校生活を送ることができると思う。

(3) 学校及び地域の活性化

一定規模の集団の確保

少子化に伴う児童生徒数の著しい減少や学校の小規模化により、教育効果の減少が懸念されているが、小・中・高等学校間での児童生徒の交流学习・交流活動により、学校としての一定規模の学習集団を確保することができ、学校の活性化が図られる。

郷土愛や郷土への誇りの涵養

ややもすると地域に対する関心や意識が希薄になりがちな傾向が見られる今日、地域の自然や歴史・文化、産業等を学ぶ教科として地域学を設け、小・中・高等学校の12年間を通して地域についての学習を深めることで、郷土愛や郷土への誇りを培うことができ、ひいては地域に貢献する人材の育成が図られるものとする。

6 構造改革特別区域計画の目標

(1) 目標

小・中・高等学校間における連携・一貫の教育を通して、「たくましいからだ、豊か

な心、すぐれた知性」をそなえ、郷土に対する誇りと柔軟な国際感覚にあふれ、新たな時代を切り拓いていく気概を持った、「知」・「徳」・「体」の調和のとれた人間の育成を目指す。

< 教育の質の向上 >

小・中・高等学校間の円滑な連携・接続を図り、小中の9年間を見通した到達目標の設定や小中高の12年間を通じた系統性・一貫性のある継続的な指導を通して、より質の高い教育を提供し、「知」「徳」「体」の調和のとれた児童生徒を育成する。

< ふるさと教育の推進 >

児童生徒の実態や地域の特性等を踏まえ、地域の教育資源を活用した特色ある教育課程の編成とそれに基づく地域に根ざした教育活動を展開することにより、ふるさとを愛しふるさとに自信と誇りを持つ児童生徒を育成する。

< キャリア教育の推進 >

自己の生き方や進路について主体的に考える「自分さがし」のキャリア教育を通して、自分に自信と誇りを持ち、夢や希望を抱いて、地域（ふるさと）に貢献する気概を持つ児童生徒を育成する。

* 自分さがし：夢や希望を持ち将来に対する自己像を描きながら自己のよりよい生き方を考えること

(2) 一貫教育の進め方

< 推進方法 >

現在、推進モデル事業として取り組んでいる「連携による一貫教育」の成果を検証するとともに、平成20年度以降は、連携型・一貫教育として全県的に拡充する。

構造改革特別区域を活用した一貫教育への参加を希望する市町村に対しては、緊密な連携を図りながら全県的な立場から積極的に支援する。

により、本県独自の新たな教育システムを構築・創造する。

< 推進計画 >

戦略プロジェクト第 期（平成17～19年度）

幼保小連携推進モデル事業

小中連携推進事業

中高連携推進モデル事業（平成18～20年度）

戦略プロジェクト第 期（平成20年度～）

第 期の取組を全県的に拡充

構造改革特別区域を活用して小中一貫教育、小中高一貫教育を開始

(3) 特区に係る内容

郷土愛や郷土への誇りを培う

小・中・高等学校における「地域学」（新教科）

（「くしま学」「さいと学」「えびの学」「ひむか学 美郷科」）

英語によるコミュニケーション能力の育成

小学校における「英会話科」（新教科）

中学校における「英語表現科又は英会話科」（新教科）

基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成

小学校高学年における「選択教科」（新教科）

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

(1) 地域を担う「人づくり」の効果（将来の地域を担う人材の育成）

小・中・高等学校を通じて、ふるさと（地域）を系統的に学習するカリキュラムとして「地域学」を編成し、地域人材等を活用してふるさと教育を展開する。

また、自己の生き方や進路について主体的に考えさせる「自分さがし」のキャリア教育を、小・中・高等学校の発達段階に即して、地域学と関連づけて展開する。

これらの取組により、「ふるさとを愛し、ふるさとに自信と誇りを持ち、夢や希望を抱いて、ふるさとに貢献する気概を持つ子ども」の育成が期待できる。

(2) 「まちづくり」の効果（地域の活性化）

保護者や地域住民等で構成する「地域の子どもを地域で育む小中高一貫教育推進協議会（仮称）」を設置し、地域の実態や特性を生かした教育の在り方等について協議することは、地域に根ざした特色ある学校づくりを通して、地域づくり・まちづくりに繋がる取組として、地域の活性化が期待できる。

また、学校を支えるサポーターとして学校支援ボランティアを募集し、学校の教育活動や環境整備等に活用することで、地域に開かれた学校運営を通して、学校教育に関心を持つ地域住民等の増加が期待できる。

(3) 実践的コミュニケーション能力を備えた国際人の育成

小学校における「英会話科」や中学校における「英語表現科」の新設、中・高等学校における英語科での徹底した習熟度別指導などにより、異文化への関心を高め、国際感覚を養うとともに、英語による実践的コミュニケーション能力を身に付けた将来の国際人となる人材を育成することが期待される。

8 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

地域の子どもを地域で育む小中高一貫教育推進協議会（仮称）の設置

保護者や地域住民等の様々な意見・要望等を学校運営や教育活動に反映することにより、地域に根ざし地域に開かれた学校づくりを推進するために、学校及び保護者、地域住民、教育委員会、関係機関等の委員で構成する推進協議会を設置し、地域の特性を生かした一貫教育の在り方について協議する。

小・中学校教員及び中・高等学校教員の兼務発令

小・中・高等学校間の教職員の相互理解と指導方法の改善を図るために、兼務発令等による相互乗り入れの交流授業などを行うことにより、学校種間の円滑な連携・接続を推進する。

一貫教育推進教員の指名

学校種間の連絡調整を円滑に進めるために、一貫教育推進教員を指名し、教育課程の編成や交流授業等の企画・運営や総合的なコーディネートを行う。

小・中学校及び小・中・高等学校一貫教育推進連絡会の設置
小・中・高等学校間のそれぞれの連携・接続を円滑・適切にするために、推進連絡会を設け、一貫教育推進のための実務的な連絡調整を行う。

事業推進のための環境整備

ア カリキュラム検討委員会の設置

教育課程の編成作業を円滑・適切に進めるために、各学校の教務主任等で構成するカリキュラム検討委員会を設け、調査研究を行う。

イ 大学等、教育関係機関との連携

大学等の専門機関と連携し、出前授業や学校教育アドバイザーとして活用することにより、児童生徒に対してはより質の高い授業を、教職員に対してはより専門的な支援を提供する。

ウ 学校支援ボランティアの募集

地域社会や地域住民が有する教育力や教育資源を効果的に学校教育に活用するために、学校を支えるサポーターとして学校支援ボランティアを募集し、教育活動や環境整備について支援する。

小中連携推進事業

小・中学校の9年間を一括りとし、「知」・「徳」・「体」に関する到達目標を設定して、小中連携による系統性・一貫性のある指導を通して、基礎学力、基本的な生活習慣や社会的マナー・エチケット、基礎体力の育成を図る。

中・高連携推進モデル事業

中学校と高等学校が、教職員の交流授業や合同研修会等の取組により相互の連携を強化し、系統性・一貫性のある指導を通して、中等教育の一層の充実を図る。

幼保小連携推進モデル事業

幼稚園・保育所と小学校が、保育士・教員間の相互交流や合同研修、幼保小連携カリキュラムの研究等を通して、幼稚園・保育所から小学校への滑らかな接続を図る。

共に子どもを育む学校評価推進事業

保護者・地域住民等の参画による学校評価システムを構築し、教育活動や学校運営の改善を行うことにより、地域に開かれた信頼される学校づくりの一層の推進と家庭・地域の教育力の向上を図る。

地域で子どもを育てる「地域教育システム創造」実践モデル事業

学校・家庭・地域が子育ての目標を共有し、相互の有機的な連携を図り、コミュニティパワー等を活用しながら地域において子どもを育てる「地域教育」のシステムを構築することにより、地域教育力の再生を図る。

別紙

1 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

(1) 小中高一貫教育として

- ・ 串間市立福島小学校・有明小学校・笠祇小学校・金谷小学校・福島中学校、県立福島高等学校
- ・ 西都市立妻北小学校・妻南小学校・妻中学校、県立妻高等学校
- ・ えびの市立飯野小学校・飯野中学校、県立飯野高等学校

(2) 小中一貫教育として

- ・ 串間市立北方小学校・秋山小学校・北方中学校
- ・ " 大東小学校・大平小学校・大東中学校
- ・ " 本城小学校・本城中学校
- ・ " 市木小学校・市木小学校築島分校・市木中学校
- ・ " 都井小学校・都井中学校
- ・ 西都市立穂北小学校・茶臼原小学校・穂北中学校
- ・ " 三納小学校・三納中学校
- ・ " 都於郡小学校・都於郡小学校山田分校・都於郡中学校
- ・ " 三財小学校・三財中学校
- ・ " 銀上小学校・銀鏡中学校
- ・ 美郷町立神門小学校・鬼神野小学校・渡川小学校・水清谷小学校・南郷中学校

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

平成20年4月1日

4 特定事業の内容

(1) 事業に関与する主体

宮崎県
串間市
西都市
えびの市
美郷町

(2) 事業が行われる区域

串間市、西都市及びえびの市並びに宮崎県東臼杵郡美郷町の全域
当面は、上記の区域において、教育課程の基準等によらない小中高一貫教育及び小中一貫教育を実施するが、今後、設置者の意向を踏まえ計画区域を順次拡大していくものとする。

(3) 事業の実施期間

平成19年度は研究期間とし、平成20年4月1日から開始し、下記「5(2)の教育課程の基準によらない部分」が教育課程の基準内になるように学習指導要領が改訂されるまでとする。

なお、特例適用開始時期の小学校第6学年が中学校第3学年を終了する4年後の平成23年度及び高等学校第3学年を終了する7年後の平成26年度に評価・見直しを行う。

(4) 事業により実現される行為や整備される施設

地域に貢献できる人材の育成を目指した小・中・高等学校12年間及び小・中学校9年間を通した「地域学」の新設

英語によるコミュニケーション能力の育成を目指し、小学校における「英会話科」、中学校における「英語表現科」の新設

基礎学力の定着と主体的学習態度の育成を目指した小学校における選択教科「セレクト国語」、「セレクト算数」の新設など

施設は、当面、既存校舎で対応する。

5 当該規制の特例措置の内容

(1) 取組の期間

平成20年4月1日から実施し、下記(2)が教育課程の基準内になるように学習指導要領が改訂されるまでとする。

(2) 教育課程の基準によらない部分

ア 串間市立全小・中学校及び県立福島高等学校

福島小学校

全学年における「地域学」としての「くしま学」の新設

- ・ 第1学年及び第2学年については、15時間を別途上乘せし、「くしま学」に充てる。
- ・ 第3学年以上については、「総合的な学習の時間」を35時間を削減し、「くしま学」に充てる。

第5学年及び第6学年における「英会話科」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を35時間削減し、「英会話科」に充てる。

第5学年及び第6学年における選択教科「セレクト国語」「セレクト算数」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を25時間削減し、「セレクト国語」「セレクト算数」に充てる。

第3学年及び第4学年における「算数科」授業時数の増加

- ・ 「総合的な学習の時間」を10時間削減し、増加分に充てる。

有明小学校・笠祇小学校・金谷小学校・北方小学校・秋山小学校・大東小学校・大平小学校

本城小学校・市木小学校・市木小学校築島分校・都井小学校

全学年における「地域学」としての「くしま学」の新設

- ・ 第1学年及び第2学年については、15時間を別途上乘せし、「くしま学」に充てる。
- ・ 第3学年以上については、「総合的な学習の時間」を35時間を削減し、「くしま学」に充てる。

第5学年及び第6学年における「英会話科」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を35時間削減し、「英会話科」に充てる。

第3学年以上における「算数科」授業時数の増加

- ・ 第3学年及び第4学年については10時間、第5学年及び第6学年については15時間をそれぞれの「総合的な学習の時間」から削減し、増加分に充てる。

第5学年及び第6学年における「国語科」授業時数の増加

- ・ 第5学年及び第6学年の「総合的な学習の時間」を10時間削減し、増加分に充てる。

福島中学校・北方中学校・大東中学校・本城中学校・市木中学校・都井中学校

全学年における「地域学」としての「くしま学」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を35時間を削減し、「くしま学」に充てる。

全学年における「英語表現科」の新設

- ・ 第1学年では「外国語科」から10時間、「総合的な学習の時間」から15時間削減し、「英語表現科」に充てる。

- ・ 第2学年以上については「総合的な学習の時間」から20時間を削減し、「英語表現科」に

充てる。

全学年における「数学科」授業時数の増加

- ・ 第1学年では10時間、第2学年以上については15時間をそれぞれ「総合的な学習の時間」から削減し、増加分に充てる。

県立福島高等学校

全学年における「地域学」としての「くしま学」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」の代替とする。
- ・ 年間1単位とする。

イ 西都市立全小・中学校及び県立妻高等学校

妻北小学校・妻南小学校・穂北小学校・茶臼原小学校・都於郡小学校・三納小学校・三財小学校
銀上小学校

全学年における「地域学」としての「さいと学」の新設

- ・ 第1学年及び第2学年については、25時間を別途上乘せし、「さいと学」に充てる。
- ・ 第3学年以上については、「総合的な学習の時間」を35時間を削減し、「さいと学」に充てる。

第5学年及び第6学年における「英会話科」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を35時間削減し、「英会話科」に充てる。

第5学年及び第6学年における選択教科「セレクト国語」「セレクト算数」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を20時間削減し、「セレクト国語」「セレクト算数」に充てる。

第1学年・第2学年・第3学年・第4学年における「国語科」授業時数の増加

- ・ 第1学年及び第2学年については10時間を別途上乘せし、第3学年及び第4学年については15時間を「総合的な学習の時間」から削減し、増加分に充てる。

第3学年及び第4学年における「算数科」授業時数の増加

- ・ 「総合的な学習の時間」を20時間削減し、増加分に充てる。

都於郡小学校山田分校（第1学年から第4学年までの在籍）

全学年における「地域学」としての「さいと学」の新設

- ・ 第1学年及び第2学年については、25時間を別途上乘せし、「さいと学」に充てる。
- ・ 第3学年及び第4学年については、「総合的な学習の時間」を35時間を削減し、「さいと学」に充てる。

第1学年・第2学年・第3学年・第4学年における「国語科」授業時数の増加

- ・ 第1学年及び第2学年については10時間、第3学年及び第4学年については15時間をそれぞれ「総合的な学習の時間」から削減し、増加分に充てる。

第3学年及び第4学年における「算数科」授業時数の増加

- ・ 「総合的な学習の時間」を20時間削減し、増加分に充てる。

妻中学校・穂北中学校・都於郡中学校・三納中学校・三財中学校・銀鏡中学校

全学年における「地域学」としての「さいと学」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を35時間削減し、「さいと学」に充てる。

全学年における「英語表現科」の新設

- ・ 第1学年では、「外国語科」を10時間、「総合的な学習の時間」を15時間削減し、「英語表現科」に充てる。
- ・ 第2学年及び第3学年は、「総合的な学習の時間」を20時間削減し、「英語表現科」に充てる。

全学年における「数学科」授業時数の増加

- ・ 第1学年では10時間、第2学年及び第3学年では15時間を「総合的な学習の時間」から削減し、増加分に充てる。

県立妻高等学校

普通科全学年における「地域学」としての「さいと学 郷土と人間社会」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」の代替とする。
- ・ 年間1単位とする。

ウ えびの市立飯野小学校・飯野中学校及び県立飯野高等学校

飯野小学校

全学年における「地域学」としての「えびの学」の新設

- ・ 第1学年及び第2学年については、「生活科」を15時間削減し、「えびの学」に充てる。
- ・ 第3学年以上については、「総合的な学習の時間」を35時間を削減し、「えびの学」に充てる。

全学年における「英会話科」の新設

- ・ 第1学年及び第2学年については、「生活科」を10時間削減し、「英会話科」に充てる。
- ・ 第3学年以上については、「総合的な学習の時間」を20時間削減し、「英会話科」に充てる。

第5学年及び第6学年における選択教科「セレクト国語」「セレクト算数」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を20時間削減し、「セレクト国語」「セレクト算数」に充てる。

第1学年・第2学年・第3学年・第4学年における「算数科」授業時数の増加

- ・ 第1学年及び第2学年については、10時間を別途上乘せする。
- ・ 第3学年及び第4学年については、「総合的な学習の時間」を10時間削減し、増加分に充てる。

飯野中学校

全学年における「地域学」としての「えびの学」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を20時間、「道徳」及び「特別活動」を各5時間削減し、「えびの学」に充てる。

全学年における「英語表現科」の新設

- ・ 第1学年では20時間、第2学年及び第3学年では25時間を「総合的な学習の時間」から削減し、「英語表現科」に充てる。

全学年における「数学科」授業時数の増加

- ・ 第1学年では10時間、第3学年では15時間をそれぞれ「総合的な学習の時間」から削減し、増加分に充てる。
- ・ 第2学年においては15時間を「選択教科」から削減し、増加分に充てる。

県立飯野高等学校

全学年における「地域学」としての「えびの学」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」の代替とする。
- ・ 年間1単位とする。

エ 美郷町立神門小学校・鬼神野小学校・渡川小学校・水清谷小学校・南郷中学校

神門小学校

全学年における「地域学」としての「ひむか学 美郷科」の新設

- ・ 第1学年については、「生活科」からの10時間削減分と別途上乘せ9時間を「ひむか学 美郷科」に充てる。
- ・ 第2学年については、「生活科」からの10時間削減分と別途上乘せ10時間を「ひむか学 美郷科」に充てる。
- ・ 第3学年以上については、「総合的な学習の時間」を35時間を削減し、「ひむか学 美郷科」に充てる。

全学年における「英会話科」の新設

- ・ 第1学年及び第2学年については25時間を別途上乘せし、「英会話科」に充てる。
 - ・ 第3学年以上は、「総合的な学習の時間」を35時間削減し、「英会話科」に充てる。
- 第5学年及び第6学年における選択教科「セレクト国語」「セレクト算数」の新設
- ・ 「総合的な学習の時間」を25時間削減し、「セレクト国語」「セレクト算数」に充てる。
- 第3学年及び第4学年における「算数科」授業時数の増加
- ・ 「総合的な学習の時間」を10時間削減し、増加分に充てる。

鬼神野小学校・渡川小学校・水清谷小学校

全学年における「地域学」としての「ひむか学 美郷科」の新設

- ・ 第1学年については、「生活科」からの10時間削減分と別途上乘せ9時間を「ひむか学 美郷科」に充てる。
- ・ 第2学年については、「生活科」からの10時間削減分と別途上乘せ10時間を「ひむか学 美郷科」に充てる。
- ・ 第3学年以上については、「総合的な学習の時間」を35時間を削減し、「ひむか学 美郷科」に充てる。

全学年における「英会話科」の新設

- ・ 第1学年及び第2学年については、25時間を別途上乘せし「英会話科」に充てる。
 - ・ 第3学年以上は、「総合的な学習の時間」を35時間削減し「英会話科」に充てる。
- 第5学年及び第6学年における「国語科」授業時数の増加
- ・ 「総合的な学習の時間」を10時間削減し、増加分に充てる。
- 第3学年以上における「算数科」授業時数の増加
- ・ 第3学年及び第4学年は10時間、第5学年及び第6学年は15時間を「総合的な学習の時間」から削減し、増加分に充てる。

南郷中学校

全学年における「地域学」としての「ひむか学 美郷科」の新設

- ・ 「総合的な学習の時間」を35時間削減し、「ひむか学 美郷科」に充てる。
- 全学年における「英会話科」の新設
- ・ 第1学年及び第2学年は、「総合的な学習の時間」を25時間削減、第3学年は「総合的な学習の時間」を30時間削減し、「英会話科」に充てる。
- 第2学年及び第3学年における「数学科」授業時数の増加
- ・ 「総合的な学習の時間」を5時間削減し、増加分に充てる。

(3) 規制の特例措置の必要性

ア 小・中・高等学校における「地域学」

本県には、伝統や文化、歴史等を保存・継承している地域が多く、「地域を題材に学ぶ」ことには整った環境であり、さらに「地域の子どもは地域で育てる」という地域住民の意識も高い。

現在、「地域学習」として「総合的な学習の時間」の中で取り組んでいる小・中・高等学校は多いが、その多くは、学年ごとの目標や内容が明確になっていないため、小学校と中学校とが、あるいは、中学校と高等学校とが同じような目標や内容で活動するなど重複が見られたり、「体験活動」や「調べ学習」だけに終わっている状況等があることは否めない。

そこで、小・中・高等学校において、その目標と学習内容等を明確に位置付けた「地域学」を新たに開設し、小・中・高等学校の12年間を通して、自らの今の生活や今後の生き方等と結びつけながら、地域の歴史や文化、自然、産業等について系統的・発展的に学ぶことを通して、地域に愛情と誇りを持ち、地域に貢献する人材の育成を図る必要がある。

イ 小学校における「英会話科」及び中学校における「英語表現科」

自らの考えや思いを臆することなく豊かに表現できることは、これからの国際化社会において必要

な能力である。

現在、小学校においては、総合的な学習の時間の中で「国際理解教育」の一環として、歌やゲームを中心とした英語活動が行われているが、「目標や内容が明確にされないままでの活動の実施」や「指導者の確保」等、実施上の課題も指摘されている。

また、中学校入学時の第1学年にとっては、小学校における歌やゲーム中心の授業から、中学校の「英語科」への移行に対し、その授業展開や指導方法等の違いに戸惑いを感じることも多く、中学校第1学年における「英語嫌い」が見られるようになってきている。

そこで、小学校における「英会話科」及び中学校における「英語表現科」を開設し、小・中学校9年間の指導目標と指導内容を明確にした系統性・一貫性のある指導の実施と小・中・高等学校教員の相互乗り入れ等による指導体制の充実を通して、英語による実践的なコミュニケーション能力と豊かな国際感覚を身に付けた児童生徒の育成を目指すことが必要である。

ウ 小学校高学年における「セレクト国語」「セレクト算数」

「読む力」、「書く力」、「話す力」、「聞く力」、「計算する力」は、全ての教科の基礎となる力であり、全ての児童生徒に必ず身に付けさせたい基礎学力である。

これらの基礎学力の定着を目指し、現在、本県では到達目標を設定し、「国語科」、「算数科」等の授業を中心に取り組んでいるところであるが十分とはいえない。

とりわけ、小学校における基礎学力の確実な定着に当たっては、児童の興味関心が大きな鍵となる。

そこで、児童の学習意欲の喚起を図った主体的な学びの場として、新たに「セレクト国語」及び「セレクト算数」を開設し、児童の選択能力及び主体的に学ぶ態度の育成を図るとともに基礎学力の確実な定着及び向上を目指す必要がある。

エ 小学校における「国語科」「算数科」及び中学校における「数学科」の授業時数の増加

小学校における「国語科」「算数科」は、基礎学力の定着及び向上の基盤となる重要な教科であり、スモールステップによるきめ細かな指導が必要である。特に、学習内容が多くなる小学校中学年の「算数科」においては、操作活動を通じた具体的思考の過程を大切し、高学年における抽象的思考に徐々に移行させることが重要である。また、中学校の「数学科」は、特に、個人差が大きく見られる教科であり、繰り返しの指導や習熟度別によるきめ細かな指導が必要となることから、授業時数を増やして対応する。

(4) 計画初年度の教育課程の内容等

平成20年4月を特例措置の開始時期とするため、教育課程の具体的内容等については平成19年度に「カリキュラム検討委員会」を設置し、検討・作成する。

従って、以下は現時点での基本的な考え方である。

ア 新設教科等

(ア) 小・中・高等学校における「地域学」の開設

「地域学」は、小・中・高等学校の12年間を通し、自らの今の生活や今後の生き方と結びつけながら、地域の歴史や文化、自然、産業等について系統的・発展的に学ぶことを通し、地域に愛情と誇りをもち、地域に貢献する人材の育成を図ることをねらいとする。

また、地域の歴史や文化、自然、産業等についての学びを自らの生活や今後の生き方と結びつけるために職場体験やインターンシップ等、その積極的な導入により、小・中・高等学校12年間、あるいは小・中学校9年間を通じたキャリア教育の充実を一層図る。

学習にあたっては、小・中・高校生の異学年構成による自然体験や社会体験等の推進、NPO法人を始め、地域の多様な組織との連携を図るなどより地域に根付いた学習活動となるよう工夫する。

さらに、「地域学」の発展として、学校外活動としての「子どもボランティア」等、地域住民と協働した地域貢献活動への発展も期待したい。

第1・2学年では、「地域で遊ぶ」、第3・4学年では「地域を知る」、第5・6学年では「地域を学ぶ」、中学校では「地域を伝える」、高等学校では「自分と地域の未来を考える」を主な指導目

標とし、各地域の実態に応じた活動内容とする。

串間市立小・中学校及び県立福島高等学校の12年間を通した「くしま学」においては、小・中・高等学校の異学年による構成も行いながら、天然記念物である「都井岬の野生馬」や「幸島の猿」等、串間市に生息する動植物の保護活動、あるいは、「本城干潟」や「高鍋秋月藩飛び地」等、串間市の自然・歴史等について、京都大学観測所や市観光課等の関係諸機関との連携を図りながら、系統的・発展的な学習を通し、自分と串間市とのかかわりを深める。

西都市立小・中学校及び県立妻高等学校の12年間を通した「さいと学」においては、「女狭穂塚」「男狭穂塚」に代表される西都原古墳を中心とした歴史、文化等について、市民ボランティアや西都原考古博物館等との連携により、「西都原古墳博士」を取得したり、古事記や日本書紀にみる西都の研究、あるいは、伊東満所と伊東家の歴史等、歴史を主たる題材としながら、系統的・発展的に学習を展開する。これらを通し、「西都原古墳」市民ボランティアとともに「子どもボランティア」としての活動に発展させるなど、自分と西都市とのかかわりを主体的に深める。

えびの市立飯野小学校・飯野中学校及び県立飯野高等学校の12年間を通した「えびの学」においては、川内川河川工事事務所との連携・協力による川内川でのホタルの生育を通し、自然環境改善への具体的取組を実践したり、JA青年部との連携・協力による米・野菜づくりを通し、えびの市の今後の農業の在り方と産業発展について、えびの市への提言等を行ったりするなど、系統的・発展的な学習の中で自分とえびの市との積極的かかわりを求める。

美郷町立神門小学校・鬼神野小学校・渡川小学校・水清谷小学校と南郷中学校における9年間の「ひむか学 美郷科」においては、小・中学校の異学年構成や課題別グループ構成等により、特に、百済王伝説と師走祭りの研究を主とした韓国との関係についての研究及び交流活動、各地区に伝わる祭りや産業等についての体験活動を中心とした系統的・発展的な取組を通し、自分とのかかわりで美郷町の歴史、文化、産業等の在り方を考える。

(イ) 小学校における「英会話科」及び中学校における「英語表現科」の開設

国際的共通語である英語を話せる日本人の育成を目指し、英語による実践的なコミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成を図るため、小学校に「英会話科」、中学校に「英語表現科」を開設し、9年間の系統性と一貫性のある指導を行う。

小学校の「英会話科」においては、ゲームや歌を中心とした授業を通し、英語に慣れ親しむことをねらいとする。

第1・2学年においては、歌やゲーム等を通し、楽しく「英語で遊ぶ」ことを指導目標とする。

第3・4学年においては、歌やゲーム等を通し、簡単な単語の意味や慣用的な表現に慣れさせ、「会話で遊ぶ」ことを指導目標とする。

第5・6学年においては、会話を中心として簡単な慣用句等を活用し、自分の考えや思いを相手に伝えることを通し、「会話を楽しむ」ことを指導目標とする。

さらに、中学校の「英語表現科」においては、小学校の「英会話科」で培った簡単な英会話の力や会話を楽しむ態度を基に、その発展としてジェスチャーやボディランゲージ等を十分活用したオーラルイングリッシュによる授業を通し、「自分の考えを表現する楽しさを体感する」ことをねらいとする。

指導にあたっては、小・中・高等学校の教師が相互に乗り入れたり、ALTや地域在住の外国人の活用を十分図りながら、その充実を推進していきたい。

なお、美郷町においては平成21年度から施設一体型の小中一貫教育に取り組むことから、小・中学校を通して名称を「英会話科」とする。

(ウ) 小学校高学年（第5・6学年）における選択教科「セレクト国語」「セレクト算数」の新設

児童の選択能力及び主体的な学びの育成と基礎学力の確実な定着及び向上を目指し、小学校高学年に選択教科として「セレクト国語」「セレクト算数」を開設する。

開設にあたっては、半期毎に「国語」か「算数」のどちらかを開設し、年間を通して「国語」及び「算数」の両方が受けられるようにする。

開設する学習内容は、主体的学びの中で「読む力」、「書く力」、「話す力」、「聞く力」、「計算する力」等、基礎学力の確実な定着と向上を目指すため、例えば、「セレクト国語」においては、本県に伝わる民話等、身近にある文学を読む「読書コース」や、生活の中にある漢字や熟語等を取り扱

う「漢字コース」、あるいは、寸劇やプレゼンテーション等を通して話す力を身に付ける「表現コース」等、児童が自らの判断で選択できるよう2～3コース程度を開設する。

また、「セレクト算数」においても、買い物や家の設計という身近な生活場面の中で四則計算や図形等について学ぶ「計算コース」、「図形コース」等、児童の興味関心を喚起するとともに児童や学校の実態に応じて開設していく。

さらに、コース内では、中学校教員を活用した習熟度別指導が行われるようにし、基礎学力の確実な定着と向上を図るとともに中学校入学へのスムーズな移行を図るものとする。

(I) 小学校における「国語科」「算数科」及び中学校における「数学科」の授業時数増加

基礎学力の一層の定着を目指し、小学校における「国語科」「算数科」及び中学校における「数学科」の授業時数を増加する。

例えば、「算数・数学科」における数概念の理解や「国語科」における読み取り等にあたっては、現在削減されがちな操作活動や音読等、具体的活動の充実を図ったり、あるいは、進級式ドリル等の活用による繰り返し指導の充実を図るとともに、小・中学校教員の相互乗り入れによる習熟度別指導を通じたきめ細かな指導により、児童生徒一人一人に「分かる喜び」と「学ぶ意欲」を実感させ、基礎学力の確実な定着と向上を目指すものである。

(オ) 高等学校における学校設定科目「基礎数学」「基礎英語」の開設

学習面における中学校から高等学校へのスムーズな移行を図り、高等学校における基礎学力の向上のため、特に、個人差が見られる「数学科」と「英語科」について、第1学年を中心としながら、習熟度別指導による「基礎数学またはエクセレント数学」及び「基礎英語またはエクセレント英語」を学校設定科目として開設する。

開設にあたっては、「つなぎ教材」の開発を行うとともに、生徒の実態に応じたきめ細かな指導が実施できるよう、中学校教員を活用した習熟度別指導を行う。

なお、第1学年の早い時期に集中的に実施したり、入学者選抜試験結果等により学習内容を焦点化するなど、開設学年や開設時期、学習内容等については各学校の実態に応じ行うものとする。

イ 小中高一貫教育全体図

別添資料「小中高一貫教育全体図」参照

ウ 各学校の取組と教育課程編成表

(ア) 串間市立全小・中学校及び県立福島高等学校における小中高一貫教育

(学校別取組一覧)

実施 形を変えての実施

内容 学校名	到達目標 の設定	比外国語 比外国語 算数	英会話科 英語表現 科	くしま 学	算数数学 授業時数 増加	国語授業 時数 増加	小中相 互乗り 入れ	中高相 互乗り 入れ	一部教 科担任 制	イカレント 数学 イカレント 英語	キャリア 教育の 充実	読書活 動の充 実
福島小 有明小 笠原小 金谷小 福島中 福島高 校												
北方小 秋山小 北方中												
大東小 大東中												
本城小 本城中												
市木小 築島分 市木中												
都井小 都井中												

(教育課程編成表)

福島小学校・有明小学校・笠原小学校・金谷小学校・福島中学校・県立福島高等学校における小中高一貫教育

福島小学校

学年	各 教 科										道徳	特別活動	総合的な学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	セレクト 国語 セレクト 算数				英会話 科	くしま 学		
1	272		114		102	68	68		90	34	34				15 +15	797 +15	
2	280		155		105	70	70		90	35	35				15 +15	855 +15	
3	235	70	160 +10	70		60	60		90	35	35	60 -45			35 +35	910	
4	235	85	160 +10	90		60	60		90	35	35	60 -45			35 +35	945	
5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	15 -95	25 +25	35 +35	35 +35	945	
6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	15 -95	25 +25	35 +35	35 +35	945	

有明小学校・笠祇小学校・金谷小学校

学年	各 教 科									道徳	特別活動	総合的学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育				セレクト国語 セレクト算数	英会話科	くしま学	
1	272		114		102	68	68		90	34	34				15 +15	797 +15
2	280		155		105	70	70		90	35	35				15 +15	855 +15
3	235	70	160 +10	70		60	60		90	35	35	60 -45			35 +35	910
4	235	85	160 +10	90		60	60		90	35	35	60 -45			35 +35	945
5	190 +10	90	165 +15	95		50	50	60	90	35	35	15 -95		35 +35	35 +35	945
6	185 +10	100	165 +15	95		50	50	55	90	35	35	15 -95		35 +35	35 +35	945

福島中学校

学年	各 教 科									道徳	特別活動	総合的学習の時間	選択教科	新 設 教 科		総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭技術	保健体育	外国語					英語表現科	くしま学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 -60	25	25 +25	35 +35	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 -70	65	20 +20	35 +35	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 -70	145	20 +20	35 +35	980

県立福島高等学校

学年	各 教 科 ・ 科 目																
	国 語			地 理 歴 史		公 民	数 学					理 科			保 健 体 育		
	国語総合	現代文	古典	世界史A 日本史A 地理A	世界史B 日本史B 地理B	現代社会 倫理 政治経済	数学	数学	数学	数学A	数学B	数学C	理科総A	生物学 物理学 地学	生物学 物理学 地学	体育	保健
1	5					2 現代社会	3			2			2			3	1
2		4 ~ 2	3	各2	各2					2				選択各3 理×2		2	1
3		3 ~ 2	3 ~ 2		各4	一部生徒 選択現代 社会3		4	理系4		1 ~ 2	理系2		選択各 文系 4×1	選択各 理系 4×2	3	

学年	各 教 科 ・ 科 目								特別活動	くしま学	学校設定科目		総 数
	芸 術		外 国 語				家 庭 情 報				I ク レ ット 数 学	I ク レ ット 英 語	
	音・美・書	・	O C	英語	英語	リーディング	ライティング	家庭総合					
1	を2		2	3				2	Cを2	1	1	1	3 3
2				4~5			2	1		1	1		3 3
3					3		3			1	1		3 3

* 地理歴史については、世界史AまたはBが必履修

北方小学校・秋山小学校・北方中学校における小中一貫教育
北方小学校・秋山小学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	新 設 教 科			総 授 業 時 数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育				セレクト 国語 セレクト 算数	英会話 科	くしま 学	
1	272		114		102	68	68		90	34	34				15 + 15	797 + 15
2	280		155		105	70	70		90	35	35				15 + 15	855 + 15
3	235	70	160 +10	70		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	910
4	235	85	160 +10	90		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	945
5	190 +10	90	165 +15	95		50	50	60	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945
6	185 +10	100	165 +15	95		50	50	55	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945

北方中学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	選 択 教 科	新 設 教 科		総 授 業 時 数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭 技術	保健 体育	外国 語					英語表 現科	くしま 学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 - 60	25	25 + 25	35 + 35	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 - 70	65	20 + 20	35 + 35	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 - 70	145	20 + 20	35 + 35	980

大東小学校・大平小学校・大東中学校における小中一貫教育
大東小学校・大平小学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	新 設 教 科			総 授 業 時 数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育				セレクト 国語 セレクト 算数	英会話 科	くしま 学	
1	272		114		102	68	68		90	34	34				15 + 15	797 + 15
2	280		155		105	70	70		90	35	35				15 + 15	855 + 15
3	235	70	160 +10	70		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	910
4	235	85	160 +10	90		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	945
5	190 +10	90	165 +15	95		50	50	60	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945
6	185 +10	100	165 +15	95		50	50	55	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945

大東中学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	選 択 教 科	新 設 教 科		総 授 業 時 数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭 技術	保健 体育	外国 語					英語表 現科	くしま 学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 - 60	25	25 + 25	35 + 35	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 - 70	65	20 + 20	35 + 35	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 - 70	145	20 + 20	35 + 35	980

本城小学校・本城中学校における小中一貫教育

本城小学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	新 設 教 科			総 授 業 時 数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育				セレクト 国語 セレクト 算数	英会話 科	くしま 学	
1	272		114		102	68	68		90	34	34				15 + 15	797 + 15
2	280		155		105	70	70		90	35	35				15 + 15	855 + 15
3	235	70	160 +10	70		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	910
4	235	85	160 +10	90		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	945
5	190 +10	90	165 +15	95		50	50	60	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945
6	185 +10	100	165 +15	95		50	50	55	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945

本城中学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	選 択 教 科	新 設 教 科		総 授 業 時 数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭 技術	保 健 体 育	外 国 語					英 語 表 現 科	くしま 学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 - 60	25	25 + 25	35 + 35	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 - 70	65	20 + 20	35 + 35	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 - 70	145	20 + 20	35 + 35	980

市木小学校・市木小学校築島分校・市木中学校における小中一貫教育

市木小学校・市木小学校築島分校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	新 設 教 科			総 授 業 時 数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育				セレクト 国語 セレクト 算数	英会話 科	くしま 学	
1	272		114		102	68	68		90	34	34				15 + 15	797 + 15
2	280		155		105	70	70		90	35	35				15 + 15	855 + 15
3	235	70	160 +10	70		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	910
4	235	85	160 +10	90		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	945
5	190 +10	90	165 +15	95		50	50	60	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945
6	185 +10	100	165 +15	95		50	50	55	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945

市木中学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	選 択 教 科	新 設 教 科		総 授 業 時 数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭 技術	保 健 体 育	外 国 語					英 語 表 現 科	くしま 学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 - 60	25	25 + 25	35 + 35	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 - 70	65	20 + 20	35 + 35	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 - 70	145	20 + 20	35 + 35	980

都井小学校・都井中学校における小中一貫教育
都井小学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	新 設 教 科			総 授 業 時 数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育				セレクト 国語 算数	英会話 科	くしま 学	
1	272		114		102	68	68		90	34	34				15 + 15	797 + 15
2	280		155		105	70	70		90	35	35				15 + 15	855 + 15
3	235	70	160 +10	70		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	910
4	235	85	160 +10	90		60	60		90	35	35	60 - 45			35 + 35	945
5	190 +10	90	165 +15	95		50	50	60	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945
6	185 +10	100	165 +15	95		50	50	55	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945

都井中学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	選 択 教 科	新 設 教 科		総 授 業 時 数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭 技術	保 健 体 育	外 国 語					英 語 表 現 科	くしま 学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 - 10	35	35	15 - 60	25	25 + 25	35 + 35	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 - 70	65	20 + 20	35 + 35	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 - 70	145	20 + 20	35 + 35	980

地域の特性を生かした多様な一貫教育特区 連携型小中高一貫教育のイメージ（福島高等学校区：串間市）

段階 内容	義務教育									高等学校		
	小学校						中学校			高等学校		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3
基礎学力 の 向上	「読み」「書き」「計算」「コミュニケーション能力」の到達目標設定による取組											
	読書指導の充実											
基礎学力 の 向上	「算数・数学科」における授業時数の増加（+10程度）											
	「セレクト算数」「セレクト国語」の実施											
	「一部教科担任制」の実施											
	「算数・数学科」における小・中教師の相互乗り入れ（小中兼務教員）											
	「数学科」における中・高教師の相互乗り入れ（中高兼務教員）											
	「英会話科」の実施											
	「英語表現科」の実施											
	「エクセレント英語」の実施											
	「英語科」における中・高教師の相互乗り入れ（中高兼務教員）											
	キャリア教育の推進・充実											
数学検定準2級以上合格 英語検定準2級以上合格												
地域貢献のための人材育成	「くしま学」（仮称）											

(1) 西都市立全小・中学校及び県立妻高等学校における小中高一貫教育

(学校別取組一覧)

実施 形を変えての実施

内容 学校	到達目標設定	外国語 算数	英会話科 英語表現科	さいと 学	算数数学授 業時数増加	国語授 業時数 増加	小中相互 乗り入れ	中高相互 乗り入れ	一部教科 担任制	基礎数学 基礎英語	キャリア 教育の 充実	人権教 育の充 実
妻北小 妻南小 妻中 妻高校												
穂北小 茶臼原小 穂北中												
都於郡小 山田分校 都於郡中												
三納小 三納中												
三財小 三財中												
銀上小 銀鏡中												

(教育課程編成表)

妻北小学校・妻南小学校・妻中学校・県立妻高等学校における小中高一貫教育
妻北小学校・妻南小学校

学年	各 教 科										道徳	特別活動	総合的な学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語				英会話科	さいと学		
1	282 +10		114		102	68	68		90	34	34				25 +25	817 +35	
2	290 +10		155		105	70	70		90	35	35				25 +25	875 +35	
3	250 +15	70	170 +20	70		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	910	
4	250 +15	85	170 +20	90		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	945	
5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945	
6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945	

妻中学校

学年	各 教 科										道徳	特別活動	総合的な学習の時間	選択教科	新 設 教 科		総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭技術	保健体育	外国語	英語表現科					さいと学		
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 -60	25	25 +25	35 +35	980	
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 -70	65	20 +20	35 +35	980	
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 -70	145	20 +20	35 +35	980	

県立妻高等学校

	各 教 科 ・ 科 目															体 育	保 健
	国 語			地 理 歴 史		公 民	数 学					理 科					
	国語総合	現代文	古典	世界史 A 日本史 A 地理 A	世界史 B 日本史 B 地理 B	現代社会 倫理 政治経済	数学	数学	数学	数学 A	数学 B	数学 C	理科総 A	生物 科学 物理 地学	生物 科学 物理 地学		
1	5			2			3			2			2			3	1
2		4~3	2		4~3			4			2			選択各 3~4		3	1
3		4~3	3~2		3~5	政治経済 3		3	理系 4		2 選択	理系 2		選択 3	選択系 各 4	2	

	各 教 科 ・ 科 目										特 別 活 動	さいと学 郷土と人間 社会	学校設定科目				総 数
	芸 術		外 国 語				家 庭	情 報	基 礎 数 学	基 礎 英 語			基 礎 英 語	基 礎 英 語			
	音・美・書	o c	英語	英語	リーディング	ライティング	家庭基礎	情報 A~C									
1	を 2		2	3				2	Aを2	1	1	1	1	3 3			
2	を 2 (選択)				4		2			1	1			3 3			
3	を 2 (選択)					3	3		Cを3 (選択)	1	1			3 3			

- * 第2・3学年は文系・理系で国語・数学・地歴・理科等の選択単位数が異なるが、各学年、過当たりの単位数合計は33単位
- * 地理歴史については、世界史AまたはBが必修

穂北小学校・茶臼原小学校・穂北中学校における小中一貫教育
穂北小学校・茶臼原小学校

学 年	各 教 科										道 徳	特 別 活 動	総合的な 学習の 時間	新 設 教 科			総 授 業 時 数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	セレクト 国語 算数				英会話 科	さいと 学		
1	282 +10		114		102	68	68		90	34	34				25 +25	817 +35	
2	290 +10		155		105	70	70		90	35	35				25 +25	875 +35	
3	250 +15	70	170 +20	70		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	910	
4	250 +15	85	170 +20	90		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	945	
5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945	
6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945	

穂北中学校

学 年	各 教 科										道 徳	特 別 活 動	総合的な 学習の 時間	選 択 教 科	新 設 教 科		総 授 業 時 数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭 技術	保健 体育	外国 語	英語表 現科					さいと 学		
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 -60	25	25 +25	35 +35	980	
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 -70	65	20 +20	35 +35	980	
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 -70	145	20 +20	35 +35	980	

都於郡小学校・都於郡小学校山田分校・都於郡中学校における小中一貫教育
都於郡小学校

学年	各 教 科										道 徳	特 別 活 動	総合的な学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	セレクト国語 セレクト算数				英会話 科	さいと 学		
1	282 +10		114		102	68	68		90	34	34				25 +25	817 +35	
2	290 +10		155		105	70	70		90	35	35				25 +25	875 +35	
3	250 +15	70	170 +20	70		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	910	
4	250 +15	85	170 +20	90		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	945	
5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945	
6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945	

都於郡小学校山田分校

学年	各 教 科										道 徳	特 別 活 動	総合的な学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	セレクト国語 セレクト算数				英会話 科	さいと 学		
1	282 +10		114		102	68	68		90	34	34				25 +25	817 +35	
2	290 +10		155		105	70	70		90	35	35				25 +25	875 +35	
3	250 +15	70	170 +20	70		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	910	
4	250 +15	85	170 +20	90		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	945	

都於郡中学校

学年	各 教 科										道 徳	特 別 活 動	総合的な学習の時間	選択教科	新 設 教 科		総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭 技術	保健 体育	外国 語	英語表 現科					さいと 学		
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 -60	25	25 +25	35 +35	980	
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 -70	65	20 +20	35 +35	980	
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 -70	145	20 +20	35 +35	980	

三納小学校・三納中学校における小中一貫教育
三納小学校

学年	各 教 科									道徳	特別活動	総合的な学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育				セレクト国語 セレクト算数	英会話科	さいと学	
1	282 +10		114		102	68	68		90	34	34				25 +25	817 +35
2	290 +10		155		105	70	70		90	35	35				25 +25	875 +35
3	250 +15	70	170 +20	70		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	910
4	250 +15	85	170 +20	90		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	945
5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945
6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945

三納中学校

学年	各 教 科									道徳	特別活動	総合的な学習の時間	選択教科	新 設 教 科		総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭技術	保健体育	外国語					英語表現科	さいと学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 -60	25	25 +25	35 +35	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 -70	65	20 +20	35 +35	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 -70	145	20 +20	35 +35	980

三財小学校・三財中学校における小中一貫教育
三財小学校

学年	各 教 科									道徳	特別活動	総合的な学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育				セレクト国語 セレクト算数	英会話科	さいと学	
1	282 +10		114		102	68	68		90	34	34				25 +25	817 +35
2	290 +10		155		105	70	70		90	35	35				25 +25	875 +35
3	250 +15	70	170 +20	70		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	910
4	250 +15	85	170 +20	90		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	945
5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945
6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945

三財中学校

学年	各 教 科									道徳	特別活動	総合的な学習の時間	選択教科	新 設 教 科		総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭技術	保健体育	外国語					英語表現科	さいと学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 -60	25	25 +25	35 +35	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 -70	65	20 +20	35 +35	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 -70	145	20 +20	35 +35	980

銀上小学校・銀鏡中学校における小中一貫教育
銀上小学校

学年	各 教 科									道徳	特別活動	総合的な学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育				セレクト国語	英会話科	さいと学	
1	282 +10		114		102	68	68		90	34	34				25 +25	817 +35
2	290 +10		155		105	70	70		90	35	35				25 +25	875 +35
3	250 +15	70	170 +20	70		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	910
4	250 +15	85	170 +20	90		60	60		90	35	35	35 -70			35 +35	945
5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945
6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	20 -90	20 +20	35 +35	35 +35	945

銀鏡中学校

学年	各 教 科									道徳	特別活動	総合的な学習の時間	選択教科	新 設 教 科		総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭技術	保健体育	外国語					英語表現科	さいと学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	95 -10	35	35	15 -60	25	25 +25	35 +35	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	35	35	20 -70	65	20 +20	35 +35	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	35	35	20 -70	145	20 +20	35 +35	980

地域の特性を生かした多様な一貫教育特区 連携型小中高一貫教育のイメージ（妻高等学校区：西都市）

段階	義務教育									高等学校			
	小学校						中学校			1	2	3	
内容	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	
基礎学力 の 向上	← 「読み」「書き」「計算」「コミュニケーション能力」の到達目標設定による取組 →												
	← 「算数科における授業時数の増加（低学年 10 時間、中学年 20 時間増）」 →			← 「セレクト算数」「セレクト国語」の実施 →			← 「数学科」における中・高教師の相互乗り入れ（中高兼務教員）による習熟度別指導の充実 →						
	← 国語科の授業時数の増加 →				← 「一部教科担任制」の実施 →			← 一部教科「算数・数学科等」における小・中教師の相互乗り入れによる習熟度別指導の充実 →			← 基礎数学の実施 →		
							← 「英語科」における中・高教師の相互乗り入れ（中高兼務教員）による習熟度別指導の充実 →						
	← 「英会話科」の実施 →						← 「英語表現科」の実施 →			← 基礎英語の実施 →			
	← キャリア教育の推進・充実 →												
										← 多様な資格の取得 →			
地域貢献のための人材育成	← 地域学「さいと学」 →						← さいと学「郷土と人間社会」 →						
心の教育の充実	← 「人権教育の推進・充実」 →												

(ウ) えびの市立飯野小学校・飯野中学校及び県立飯野高等学校における小中高一貫教育

(学校別取組一覧)

実施

内容 学校	到達目標 の設定	外国語 外国算数	英会話科 英語表現科	えびの 学	算数数学 授業時数 増加	小中相互 乗り入れ	中高相互 乗り入れ	一部教 科担任 制	基礎数学 基礎英語	キャリ ア教育 の充実	生徒指導 の充実
飯野小 飯野中 飯野高校											

(教育課程編成表)

飯野小学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総合的な 学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育				セレクト 国語算数	英会話 科	えびの 学	
1	272		124 +10		77 -25	68	68		90	34	34			10 +10	15 +15	792 +10
2	280		165 +10		80 -25	70	70		90	35	35			10 +10	15 +15	850 +10
3	235	70	160 +10	70		60	60		90	35	35	40 -65		20 +20	35 +35	910
4	235	85	160 +10	90		60	60		90	35	35	40 -65		20 +20	35 +35	945
5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	35 -75	20 +20	20 +20	35 +35	945
6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	35 -75	20 +20	20 +20	35 +35	945

飯野中学校

学年	各 教 科									道 徳	特 別 活 動	総合的な 学習の時間	選択教科	新 設 教 科		総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭 技術	保 健 体育	外 国 語					英 語 表 現科	えびの 学	
1	140	105	115 +10	105	45	45	70	90	105	30 -5	30 -5	50 -50	0	20 +20	30 +30	980
2	105	105	120 +15	105	35	35	70	90	105	30 -5	30 -5	60 -45	35 -15	25 +25	30 +30	980
3	105	85	120 +15	80	35	35	35	90	105	30 -5	30 -5	70 -60	105	25 +25	30 +30	980

県立飯野高等学校（普通科）

学年	各 教 科 ・ 科 目																									
	国 語				地 理 歴 史				公 民		数 学					理 科					保 健 体 育					
	国語総合	現代文	古典	古典講読	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会 政治経済	数学	数学	数学	数学A	数学B	数学C	理科基礎	理科総合B	物理	物理	化学	化学	生物	生物	体育
1	4									現代社会 2	3			2			2				1				3	1
2		2	2							現代社会 2		3			2										3	1
3		3	2	3						政治経済 3		or 4				3	3								2	3

学年	各 教 科 ・ 科 目													特別活動	えびの学	学校設定科目		総 数			
	芸 術					外 国 語			家 庭	情 報	家 庭 商 業		基礎数学			基礎英語					
	音楽	音楽	美術	美術	書道	書道	OC	英語	英語	リテ'イタ'	家庭基礎	情報A					家庭情報処理		簿記		
1			2				2	2				2	2			1	1	1	1	3	2
2				2						5						1	1	1	1	3	2
3						3				5				4	3	1	1			3	2

- * については、同記号からの選択
- * 地理歴史については、世界史AまたはBが必履修

県立飯野高等学校（生活情報科）

学年	各 教 科 ・ 科 目																						
	国 語			地 理 歴 史		公 民	数 学			理 科			保 健 体 育		芸 術				外 国 語				
	国語表現	国語総合	現代文	世界史A	地理A	現代社会 政治経済	数学	数学	数学A	理科基礎	理科総合A	生物	体育	保健	音楽	音楽	美術	美術	書道	書道	OC	英語	英語
1		4			2				2			3	1				2					2	
2	2		2			現代社会 3	2	1		2		3	1							1		2	
3			4	2		政治経済 3		4			3	2		2						1		2	

学年	各 教 科 ・ 科 目													特別活動	えびの学	学校設定科目		総 計
	家 庭										商 業		基礎数学			基礎英語		
	家庭総合	生活産業基礎	課題研究	家庭情報処理	消費生活	発達と保育	ファッションデザイン	被服製作	フードデザイン	生活美学	商業技術	簿記						
1	4	2		2				2	1				1	1	2	1	3	2
2				2				2	2	1	2		1	1			3	2
3			2	3	2	2	3	4	4	1	2	4	1	1			3	2

- * については、同記号からの選択

地域の特性を生かした多様な一貫教育特区 連携型小中高一貫教育のイメージ（飯野高等学校区：えびの市）

段階 内容	義務教育									高等学校		
	小学校						中学校			高等学校		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3
基礎学力 の 向上	← 「知」・「徳」・「体」の到達目標設定による取組 →											
	← 「算数・数学科」における授業時数の増加（+10程度） →									← 「基礎数学」の実施 →		
				← 「セレクト学習」国語・算数の実施 →								
							← 「算数・数学科」における小・中教師の相互乗り入れ（小中兼務教員）による習熟度別指導の充実 →			← 「数学科」「英語科」における中・高教師の相互乗り入れによる習熟度別指導の充実 →		
	← 「英会話科」の実施 →						← 「英語表現科」の実施 →			← 「基礎英語」の実施 →		
	← 「キャリア教育」の推進・充実及び生徒指導の充実 →											
										← 数学検定準1級取得 英語検定準2級取得 →		
地域貢献のための人材育成	← 地域学「えびの学」 →											

(I) 美郷町立神門小学校・鬼神野小学校・渡川小学校・水清谷小学校・南郷中学校における小中一貫教育

(学校別取組一覧)

実施 形を変えての実施

内容 学校	到達目標設定	セレクト セレクト	国語 算数	英会話科	ひむか学 美郷科	算数・数学授 業時数増加	国語授業時 数増加	小中相互 乗り入れ	一部教科 担任制	キャリア 教育の充実
神門小 鬼神野小 渡川小 水清谷小 南郷中										

(教育課程編成表)

神門小学校

学年	各 教 科										道徳	特別活動	総合的な 学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	セレクト 国語 算数				英会話 科	ひむか 学 美郷科		
1	272		114		92 - 10	68	68		90	34	34			25 + 25	19 + 19	816 + 34	
2	280		155		95 - 10	70	70		90	35	35			25 + 25	20 + 20	875 + 35	
3	235	70	160 + 10	70		60	60		90	35	35	25 - 80		35 + 35	35 + 35	910	
4	235	85	160 + 10	90		60	60		90	35	35	25 - 80		35 + 35	35 + 35	945	
5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	15 - 95	25 + 25	35 + 35	35 + 35	945	
6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	15 - 95	25 + 25	35 + 35	35 + 35	945	

鬼神野小学校・渡川小学校・水清谷小学校

学年	各 教 科										道徳	特別活動	総合的な 学習の時間	新 設 教 科			総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	セレクト 国語 算数				英会話 科	ひむか 学 美郷科		
1	272		114		92 - 10	68	68		90	34	34			25 + 25	19 + 19	816 + 34	
2	280		155		95 - 10	70	70		90	35	35			25 + 25	20 + 20	875 + 35	
3	235	70	160 + 10	70		60	60		90	35	35	25 - 80		35 + 35	35 + 35	910	
4	235	85	160 + 10	90		60	60		90	35	35	25 - 80		35 + 35	35 + 35	945	
5	190 + 10	90	165 + 15	95		50	50	60	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945	
6	185 + 10	100	165 + 15	95		50	50	55	90	35	35	15 - 95		35 + 35	35 + 35	945	

南郷中学校

学年	各 教 科										道徳	特別活動	総合的な 学習の時間	選択教科	新 設 教 科		総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	家庭 技術	保健 体育	外国 語	英会話 科					ひむか 学 美郷科		
1	140	105	105	105	45	45	70	90	105	35	35	15 - 60	25	25 + 25	35 + 35	980	
2	105	105	110 + 5	105	35	35	70	90	105	35	35	15 - 65	75	25 + 25	35 + 35	980	
3	105	85	110 + 5	80	35	35	35	90	105	35	35	15 - 70	150	30 + 30	35 + 35	980	

なお、神門小学校と南郷中学校については、平成21年度から施設一体型の小中一貫教育を実施することから、「4・3・2制」による教育課程の区分を平成21年度から試行する。

地域の特性を生かした多様な一貫教育特区 施設一体型小中一貫教育（美郷町）

段 階 内 容	小 学 校						中 学 校		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
基 礎 学 力 の 向 上	← 「読み」「書き」「コミュニケーション能力」の到達目標設定による取組 →								
		← 算数科における授業 時数の増加 →					← 数学科における授業 時数の増加 →		
					← 「セレクト国語」 「セレクト算数」 の実施 →				
			← 専科による指導 →		← 「一部教科担任制」 の実施 →				
					← 算数・数学科における小・中教員の相互乗り入れ等 による少人数指導（習熟度別指導等） →				
	← 「英 会 話 科」 の 実 施 →								
	← 「キ ャ リ ア 教 育」 の 推 進 ・ 充 実 →								
地 域 貢 献 の た め の 人 材 育 成	← 「ひ む か 学 美 郷 科（仮称）」 の 開 設 →								

(5) 要件適合性を認めた根拠

本県の「地域の特性を生かした多様な一貫教育特区」は、小中高等学校間における「一貫と連携・融合の教育」を通して、「たくましいからだ・豊かな心・すぐれた知性」の育成を図り、ふるさとを愛し、ふるさとに自信と誇りを持ち、夢や希望を抱いて、社会（ふるさと）に貢献できる気概を持つ子どもの育成を目指すものであり、学習指導要領に示された「生きる力」を育む教育と目的を同じにするものである。

よって、「宮崎の教育創造プラン」の具現化としての「地域の特性を生かした多様な一貫教育特区」は、学校教育法第17条、第18条、第35条、第36条、第41条、第42条に示された目的や目標を逸脱するものではない。

とりわけ、教育課程の変更については、「基礎学力の向上」や「英語による実践的コミュニケーション能力の育成」及び「地域に貢献できる人材の育成」を目指すためのものであり、今日的課題である「これからの社会において活躍できる日本人の育成」に寄与するとともに、憲法及び教育基本法の理念等を十分に踏まえているものと考ええる。

さらに、今後、串間市・西都市・えびの市・美郷町以外の市町村も本事業を希望することが想定されることから、教育の機会均等を定めた憲法第26条及び教育基本法第4条に符合するものと考ええる。

なお、新教科である「地域学」、「英会話科」、「英語表現科」、「セレクト国語」、「セレクト算数」については、小・中学校においては原則として「総合的な学習の時間」の時数を削減、高等学校においてはその全部を削減した時数を充てる。

小・中・高等学校における「地域学」のねらいは、小・中・高等学校の12年間、あるいは小・中学校の9年間を通し、それぞれの地域の歴史や文化、自然、産業等について、自らの今の生活や今後の自らの生き方等と結びつけながら学ぶことを通し、地域に愛情と誇りをもち、地域に貢献する人材の育成を図ることであり、「地域学」を通した小・中・高等学校12年間、あるいは小・中学校9年間におけるキャリア教育の実現でもある。

したがって、「総合的な学習の時間」の授業時数の一部を削減、高等学校においては全てを削減しても、「総合的な学習の時間」のねらいである「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」、「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」ことを十分達成できるものと考ええる。

えびの市、美郷町の小学校における生活科授業時数の一部を「地域学」に充てることについては、身近な地域の歴史や文化、自然等についての自然体験や社会体験等、様々な体験活動を重視した「地域学」の学習を行うことにより、「自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」という生活科の目標は十分に達成できると考える。

えびの市の中学校における道徳及び特別活動の授業時数の一部を「地域学」に充てることについては、異学年構成や自然体験、社会体験等を重視した「地域学」の学びの中で、「郷土愛」や「地域社会の一員の自覚」、「規範意識の高揚」、「思いやりの心」等、道徳的心情や判断力、あるいは、自主的、実践的な態度の育成を図ることができ、道徳及び特別活動の趣旨は十分達成できると考える。

小学校における「英会話科」及び中学校における「英語表現科」は、歌やゲーム、日常的な英会話を中心とした授業の中で、小・中学校9年間を通した英語による実践的なコミュニケーション能力の育成を目指すものである。

小学校においては、ゲームや歌を中心とした授業構成、中学校においては、ジェスチャーやボディランゲージ等も十分活用しながらのオーラルイングリッシュによる会話を中心とした授業構成により英語に親しみ、英語を使う楽しさや自分の考えを自由に表現できる楽しさ・喜びを実感することをねらいとするため、児童生徒一人一人にとって、楽しく主体的・創造的な時間となるよう工夫していきたい。さらに、高等学校における英語教育の充実につないでいきたい。

このような主体的な学びや実践的能力の育成は、「総合的な学習の時間」のねらいである「学び方やものの考え方を身に付け、課題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える」ことにつながるものと考ええる。

串間市、西都市の中学校における「外国語科」授業時数の一部を「英語表現科」に充てることについては、「英語表現科」の授業を通し、実践的コミュニケーション能力の育成を図ることができ、「外国語科」の目標を十分達成でき、授業時数削減を十分に補完できるとものと考える。

小学校第5・6学年における選択教科「セレクト算数」、「セレクト国語」の新設のねらいは、「国語・算数科における基礎学力の確実な定着と向上を図るとともに、自ら課題を見つけ考えることを通して、課題の解決や探求活動に主体的・創造的に取り組む態度の育成」を目指すものであり、「総合的な学習の時間」のねらいと一致するものである。従って、「総合的な学習の時間」の授業時数を一部削減しても、そのねらいは達成できるものと考える。

串間市・西都市・えびの市・美郷町の小・中学校における「総合的な学習の時間」の授業時数の一部削減による「算数・数学科」授業時数の増加に関しては、算数・数学的活動や繰り返し指導等の充実に充て、できる喜びや算数・数学の楽しさが実感できる授業となるよう工夫するとともに児童生徒の具体的思考から抽象的思考への移行過程を大切に授業構成とする。

また、串間市、西都市、美郷町の小学校における「総合的な学習の時間」の一部削減による「国語科」授業時数の増加についても、特に、コミュニケーション能力や表現力向上の充実に充て、自らの意志や考えを相手に伝える力、相手を理解しようとする力や態度の育成に力点を置いた授業構成とする。

これらは、総合的な学習の時間の「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる」というねらいを十分達成できるものであると考える。

えびの市の中学校第2学年における「選択教科」の授業時数の一部を「数学科」に充てることについては、小・中学校教員や中・高等学校教員の相互乗り入れによる課題別学習や習熟度別学習の実施により、主体的学習態度の育成とともに基礎・基本の確実な定着を図ることができ、「選択教科」の授業時数削減は十分補完できると考える。

(6) 弊害防止措置の内容

串間市、西都市、えびの市、美郷町においては、特別措置を受ける学校の年次的拡大を計画していることから、地域住民の不公平感の解消は図られる。

さらに、特区を活用した小中高一貫教育を推進する中学校以外に在籍する中学生が不利益を被ることのないよう、また、小中高一貫教育を推進する中学校生徒の進路選択の自由に対応するため、当該高等学校への入学者選抜試験については、当分の間、一般入試とする。

転入学児童生徒については、個々の実態に応じて、放課後や長期休業中等を活用した個別指導をきめ細かに行うことにより、児童生徒が戸惑うことのないよう十分な配慮に努める。

また、保護者に対しても一貫教育の趣旨等についての理解と協力が得られるよう、丁寧な説明と対応に努める。

6 その他

(1) 「地域の子どもを育む小中一貫教育推進協議会」の設置

地域に貢献できる人材育成のためには、地域資源を十分に活用した地域密着型の学校であるとともに当該学校が地域にとってなくてはならない存在であることが重要である。

そこで、「地域の子どもを育む小中一貫教育推進協議会」を設置し、学校と地域住民がともに地域の人材づくりに携わることを目指すとともに地域の活性化に資することとする。

(2) 「カリキュラム検討委員会」の設置

県教育委員会としては、平成20年度からの事業開始に伴い、平成19年に新設教科の学年別目標や学習内容、評価の観点等について検討する「カリキュラム検討委員会」を設置し、実施市町及び当該学校の支援を行う。

構造改革特区を
活用した取組

- 小学校 英語による実践的コミュニケーション能力育成のための「英会話科」の新設
- 小学校高学年 教科や学習内容が選択できる「セレクト算数」、「セレクト国語」の新設
- 中学校全学年 小学校における「英会話科」からの接続を図った「英語表現科」の新設
- 小・中・高等学校 地域の歴史や文化、自然、産業等について、自らの生き方等に結びつけた学びを通じ、地域に貢献する人材の育成を目指す「地域学」の新設

12年間の一貫教育によって

「地域貢献のための人材育成」と「徹底した学力向上（算数・数学・英語）」を目指します！



「知」「徳」「体」の到達目標設定		
5・6年生の「セレクト算数」「セレクト国語」の実施 高学年における教科担任制の実施		中高兼務教員の活用による「基礎数学」及び「基礎英語」の実施
算数科授業時数の増加	数学科授業時数の増加	
小中兼務教員の活用による「算数科」習熟度別指導の充実	小中兼務教員及び中高兼務教員の活用による「数学科」習熟度別指導の充実	中高兼務教員の活用による「数学科」習熟度指導の充実
小中兼務教員等の活用による小学校「英会話科」の実施	中高兼務教員等の活用による中学校「英語表現科」の実施	
中高兼務教員等の活用による「英語科」習熟度別指導の充実		
小中高における「キャリア教育を織り込んだ「地域学」の実施（高校においては「総合的な学習の時間」の代替） ・美郷町：「ひむか学 美郷科」 ・串間市：「くしま学」 ・えびの市：「えびの学」 ・西都市：「さいと学」		
地域独自の取組 ・串間市：家庭学習の充実・読書活動の充実 ・西都市：人権教育の充実 ・えびの市：基本的な生活習慣の定着と文化・スポーツにおける異学年交流の推進 ・美郷町：4・3・2制の試行、施設一体型小中一貫教育		

「 の子どもを育む小中高一貫教育推進協議会 」
(学校・保護者・地域住民・教育委員会・関係機関等の推進委員で構成)

